

# 高知赤十字病院だより

## 高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

## 高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動へ積極的な参加と支援を行います。

## 受診される皆様へ

### 患者様の権利

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーを保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

### 患者の皆様へのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

# 秋号

## vol.17

### 2012.11

日本周産期・新生児医学会(妊娠・出産・新生児を対象とした学会)では、産まれてすぐに産声を上げることでできない新生児に対する心肺蘇生法を修得するための「新生児蘇生法(NCPR)講習会」を運営しています。標準的な新生児蘇生法の理論と技術を習得することにより、児の救命と重篤な障害の回避を目指しています。

講習会受講後、試験に合格すると日本周産期・新生児医学会「新生児蘇生法修了認定」の資格を得ることができます。

筆者は3年前に学会より新生児蘇生法(NCPR)インストラクター認定を受け、3年間各方面に対してインストラクションを行い、このたびインストラクター養成講習で指導する立場の「クオリティマネージャー」に推薦されました。昨年より全国12か所にトレーニングサイトなるものができ、そのうちの1カ所である香川大学医学部へ9月1日の土曜日に行き、まいりました。私1人で行くのは寂しいので、また今後は助産師さんにも医師以上に頑張っていたきたいので、産婦人科棟助産師の公文忍さん、松田舞さんをお供として連れて行き、インストラク

# 女たちの新生児蘇生法(NCPR)インストラクター養成講習奮闘記

産婦人科 平野 浩紀

日本周産期・新生児医学会(妊娠・出産・新生児を対象とした学会)では、産まれてすぐに産声を上げることでできない新生児に対する心肺蘇生法を修得するための「新生児蘇生法(NCPR)講習会」を運営しています。標準的な新生児蘇生法の理論と技術を習得することにより、児の救命と重篤な障害の回避を目指しています。

講習会受講後、試験に合格すると日本周産期・新生児医学会「新生児蘇生法修了認定」の資格を得ることができます。

筆者は3年前に学会より新生児蘇生法(NCPR)インストラクター認定を受け、3年間各方面に対してインストラクションを行い、このたびインストラクター養成講習で指導する立場の「クオリティマネージャー」に推薦されました。昨年より全国12か所にトレーニングサイトなるものができ、そのうちの1カ所である香川大学医学部へ9月1日の土曜日に行き、まいりました。私1人で行くのは寂しいので、また今後は助産師さんにも医師以上に頑張っていたきたいので、産婦人科棟助産師の公文忍さん、松田舞さんをお供として連れて行き、インストラク

ター養成講習を受けてもらいました。全国各地から集まった小児科医師を中心とする、しかも最先端の病院に所属する面々の中、持ち前の度胸と根性と図々しさで堂々と実習をこなし、無事2人は合格し晴れてNCPRインストラクター認定となりました。合格祝いに立ち寄った讃岐うどんの名店(山田屋)の名物(釜ぶっかけうどん)はたいへん美味でございました。

今後は高知県内の助産師さんを中心とするコミュニティの方たちを対象に講習会を開催する先鋒として、そして崩壊しつつあるかもしれない高知県の周産期医療の救世主として活躍していただきたいと思っています。



助産師の松田舞さん



助産師の公文忍さん

ご自由にお持ち帰りください。

**災**害時の紙カルテや検査オーダーなど、通常業務を行うことにも戸惑い、自分の未熟さを痛感した。東日本大震災で被災した病院のスタッフの話や、多くの方が自分の無力さを感じた、と語っていた。しょうがなかったと感じながらも、もっと助けられた命があったのではないかと、患者さんに申し訳ない、と。日常業務に追われながらのことで難しい面もあるが、患者さんの身を守るためにも、自分自身のためにも今後もできる限り訓練に参加していきたいと感じた。運営して下さった方々に貴重な経験をさせていただいたことを感謝します。  
(初期臨床研修医 土田亜希)



**私**は災害対策訓練に参加させていただくのは今回が初めてでした。どのような訓練なのか理解できておらず、先生方やスタッフのみなさんには多大なご迷惑をおかけしてしまったことだと思います。しかし、実際に災害が発生した時の対応を知ることができ、とても参加した意義のある訓練でした。実際にこの経験を生かす機会がないことを祈りますが、不幸にも災害が起きてしまった場合には微力を尽くせるように努力していきたいと思っています。(初期臨床研修医 坂本 敬)



**9**月1日に行われた院内災害対策訓練には、午前中はアナウンスからの災害対策本部、午後からは傷病者の役で参加させて頂いた。災害対策本部では、医師や看護師の管理、各エリアの状況の取りまとめなどを行っていたが、自分がどう動いてよいか分からずに戸惑ってしまった。院内の状況を時間軸と共にホワイトボードにまとめていくという役についたものの、さまざまな情報が飛び交うなかの作業はとても難しかった。今回は訓練であったが、もし実際に災害がおこってしまったときは、自らができることを考えて積極的に動いていくことが大切だと感じた。  
(総務課 主事 村越 麗)



# 災害対策訓練に過去最多の参加

9月1日の「防災の日」、行政の防災機関が行う広域搬送訓練と併行した院内災害対策訓練に168名の職員が参加しました。

震度7の南海地震を想定した訓練は、午前10時の発災合図で開始され、災害対策本部の立ち上げ、被災状況報告、各エリアでの患者受入と災害対応マニュアルに沿って進められました。また、高知市の5つの救護病院から17名の見学があり、「自院の災害対策に大変参考になった」と感想をいただきました。午後から

は、岡山・兵庫・広島等からDMAT隊を受入れ、広域搬送患者を高知大学医学部附属病院まで搬送するなど広域災害拠点病院としての訓練を午後6時過ぎまで行いました。

災害時に最も重要な情報収集と伝達の難しさを改めて感じ、ハード面を充実するとともに訓練をとおして見えてきた課題を防災救護対策委員会で検討しマニュアルに反映していきたいと思います。

## 参加者の感想

午前中は傷病者役をしながら周りの様子をじっくりと観察する事が出来ました。午後の赤エリアでは、主事として目の前のことに対処するだけで精一杯でした。今になって考えるともっと冷静に対応できればよかったと思いました。訓練に参加したことで、自分に足りない部分を改めて実感する事が出来ました。

(企画課主事 尾崎由実)



今回、初めて院内の災害訓練を経験しました。訓練は想像していたよりも大掛かりなものであり、緊張感に包まれたものでした。私は実際に負傷した患者さんが次々と運ばれてくるパニック状態の中で、先輩医師やコメディカルの方々にサポートしていただきながら、ただがむしゃらに対応していくことで精一杯でした。全体を見る余裕がなかったことや冷静な判断にかけてしまったことなど反省点の多いものでしたが、その分自分にとって実りの多い訓練であったと思います。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

(初期臨床研修医 松村未希)

外 来 診 療 予 定 表

Table with columns for Day (曜日), Department (科別), and various medical specialties (内科, 外科, etc.) listing doctors and their schedules.

- ◎午前の外来診療受付時間 8:00-11:30
◎午後外来診療受付時間 8:00-16:00
◎外来診療開始時間 8:45
◎学会出張等で担当医が変更になることがありますのでご了承ください。

助産外来について
当院、産婦人科外来で妊婦健診を受けている方の20週～27週、36週以降の妊婦健診を行います。

地域医療連携研修会

医療社会事業課

今年も、高知市・南国市・佐川町にて地域医療連携研修会を開催しました。今年の特テーマは、「急変時の観察ポイントと初期対応」で、救急部の廣田医師と、救急外来の寺尾看護係長に講師をお願いしました。高知市での開催は、申込者多数にて急遽2回実施し、226名と310名の参加がありました。南国市では164名、佐川町では159名の参加がありました。総動員数は859名となりました。ご参加くださいました皆様、ありがとうございます。アンケート結果も大変良い評価で、研修内容に満足していただけたと思います。病院、診療所、施設、訪問看護ステーション等から、医師、看護師、介護職、その他様々な職種の皆様に参加していただき、まさに地域包括ケアを推進するための連携をイメージした研修会となりました。この研修の目的は、当院の看護師が、地域のダイレクターの方とケ



アを共有し、顔の見える連携を図ることです。このような研修会や事例検討会、多職種合同カンファレンスを地道に重ねることで、急性期病院としての当院の「看」を連携・看「介」連携・看「在連携」への姿勢を理解していただき、当院として取り組む療養支援を具現化し、スムーズな連携につなげていきたいと思っております。お疲れのところ、何度も、そして遠くまでご一緒くださいました院長先生、廣田先生、寺尾係長、またお手伝いいただきました職員の皆様、心より感謝いたします。ありがとうございました。